

平成30年度 立川市教育委員会表彰

立川市教育委員会では、有益な調査・研究、特に模範となる行為、教育・文化の振興における功績、体育その他の文化活動において特に優秀な成績をあげた個人または団体を、規程に基づき表彰しています。今年度は平成30年11月3日文化の日に市役所本庁舎にて表彰を行いました。

☎教育総務課・内線2465



平成30年度立川市教育委員会表彰 表彰者一覧

学校名等	該当者	該当内容
第六小学校教諭	溝越 勇太	業務上の成績が特に優秀
上砂川小学校教諭	山崎 光弘	業務上の成績が特に優秀
立川第四中学校	島村 涼太	第45回全日本中学校陸上競技選手権大会 棒高跳 出場
立川第五中学校	高野倉 真央	第26回全国中学生空手道選手権大会 女子個人組手 第5位
立川第六中学校	小林 龍生	第58回全国中学校水泳競技大会 男子100m自由形 第6位
立川第七中学校	脇川 颯太	第42回関東中学校水泳競技大会 男子100m背泳ぎ 第5位
立川第七中学校	高原 一希	第46回関東中学校陸上競技大会 男子1年 走幅跳 第1位
立川第八中学校	赤羽 優悟 田村 翔 夜久 修斗 上田 大生	第26回全国中学生空手道選手権大会 男子団体形 第5位
東京学芸大学附属小金井小学校	岡部 那由多	第8回日本パッハコンクール全国大会 小学校3・4年B部門 金賞 およびベスト賞
東京学芸大学附属小金井小学校	荒川 桐真	第71回全日本学生音楽コンクール全国大会 バイオリン部門小学校の部 第3位
筑波大学附属駒場高等学校	小宮 晨一	第7回科学の甲子園全国大会 総合成績 第3位
市内在住(第四小学校教諭)	佐川 公太	WFDF2018世界アルティメットクラブチーム選手権大会 世界大会 第6位

教育委員の活動を紹介します

教育委員の平成30年9月から12月までの活動は下表の通りです。またその他に道徳授業地区公開講座、各種研修会、運動会等へ参加しています。

活動実績(平成30年9月～12月)

9月11日	第17回教育委員会定例会 学校訪問(第五小学校)
9月27日	第18回教育委員会定例会
10月11日	第19回教育委員会定例会
10月12日	東京都市町村教育委員会連合会 管外視察 研修会
10月25日	オリパラ教育学校訪問視察 (第十小学校) 学校訪問(立川第四中学校) 第20回教育委員会定例会
10月30日	東京都市町村教育委員会連合会 第4ブロック研修会
11月8日	第21回教育委員会定例会 第2回総合教育会議 平成30年度立川市立中学校PTA連 合会と教育委員会との懇談会
11月10日	立川第九中学校創立40周年 記念式典
11月17日	第七小学校創立60周年記念式典
11月21日	学校訪問(立川第一中学校)
11月22日	第22回教育委員会定例会
11月29日	学校訪問(松中小学校) 学校訪問(南砂小学校)
12月14日	第23回教育委員会定例会 第1回教育委員会研修会
12月27日	第24回教育委員会定例会

☎教育総務課・内線2465

新たに1名の方が教育委員に就任しました

立川市教育委員会では佐伯雅斗委員の任期満了(平成30年12月24日)に伴い、12月18日に開催された市議会12月定例会において同意を得て、下記のとおり新委員が任命されました。なお、新委員は公募により選任されました。

新委員 嶋田 敦子(しまだ あつこ)
元立川市立中学校PTA 会長



これに伴い、教育委員会の構成は次のとおりとなりました。

職名	氏名	任期
教育長	小町 邦彦	自 平成28年4月1日 至 平成31年3月31日
教育長 職務代理	松野 登	自 平成27年12月25日 至 平成31年12月24日
委員	田中 健一	自 平成28年12月24日 至 平成32年12月23日
委員	伊藤 憲春	自 平成29年12月24日 至 平成33年12月23日
委員	嶋田 敦子	自 平成30年12月25日 至 平成34年12月24日

☎教育総務課・内線2465

立川市の歴史と文化財

38

立川駅の開設



「立川駅前千本桜」

今年、平成31(2019)年から130年前の明治22(1889)年4月11日に甲武鉄道の新宿～立川間が開通し、立川駅が開設されました。4ヶ月後の8月11日に、工事の遅れていた立川～八王子間が開通しました。甲武鉄道の「甲」は甲斐(山梨県)、「武」は武蔵の意で、東京と山梨(甲府)を、鉄道で結ぶことを最終目的としていました。

甲武鉄道の発端は、明治16年の玉川上水の堰堤を利用した新宿～羽村間の馬車鉄道計画でしたが、東京府の許可がおりませんでした。その後羽村から八王子に目的地を変え、明治19年11月には青梅街道、五日市街道沿いを走る新宿～八王子間の馬車鉄道が認可になりました。明治20年前後は、後に「第一次鉄道熱時代」と呼ばれ、数多くの鉄道計画が立てら

れました。それに刺激されたのか、馬車鉄道から機関車鉄道へ変更する願書を1ヶ月後の12月に提出しました。紆余曲折がありましたが、明治21年3月に新宿～八王子間の正式な認可があり、工事は6月から始まったのでした。測量はそれに先立つ、明治21年1月から始まっており、測量後に武蔵野台地を直線的に進むルートが正式に決定したと考えられます。

立川駅は松林や桑畑の中に設置されました。当時の立川村の中心地は、諏訪神社の南側でしたが、駅舎は南側ではなく、北側に造られました。最初の計画では南側に駅舎が造られる予定でした。当時は蒸気機関車で、機関車を動かすには大量の水が必要です。甲武鉄道は立川村に「水積六坪二合五勺」(約5.6cm四方の取水口)を求めましたが、反対する者がおり返事を引き延ばしていたところ、砂川村から水を供給するから、駅舎を北側にするよう要求があり、それを甲武鉄道が了承したため、駅舎は北側に造られたのでした。これは初代北多摩郡長で、現立川市域(立川村、砂川村)で唯一の甲武鉄道株主でもあった砂川村名家出身の砂川源五右衛門の力が大きかったとされています。

駅舎が北側に変更されたことを知った立川村は巻き返しに出ました。立川村の鈴木平九郎らが中心となって、再度南側に駅舎の位置を変更するように甲武鉄道や、神奈川県当時多摩地区は神奈川県に働きかけたようです。しかしその願いはかなうことなく北側に駅舎が造られたのでした。

駅が設置されると、すぐに駅周辺には旅人や鉄道利用者を対象にした商店や旅館などができ、「街」として賑わうようになりました。駅周辺は明治30年には30軒、明治34年には80軒と建物が増えていき、「停車場」という地名が生まれたのです。

時期的には前後しますが、明治27年には青梅鉄道(現在の青梅線)が、昭和4年には南武鉄道(現在の南武線)が、昭和5年には五日市鉄道(現在の五日市線 立川～拝島間)現在の青梅線とは別路線)は廃止が、それぞれ立川駅に乗り入れ、立川は多摩の交通の要所として、発展していくことになるのです。

掲出の絵は明治35年頃の立川駅を描いたもので、市指定有形文化財「立川村十二景」の一枚です。正面に駅舎、右手には大きな桜の木が描かれています。桜の木は後に「玉桜」と呼ばれ、駅関係者や住民から親しまれたそうです。

☎歴史民俗資料館(生涯学習推進センター文化財係) ☎(525)0860